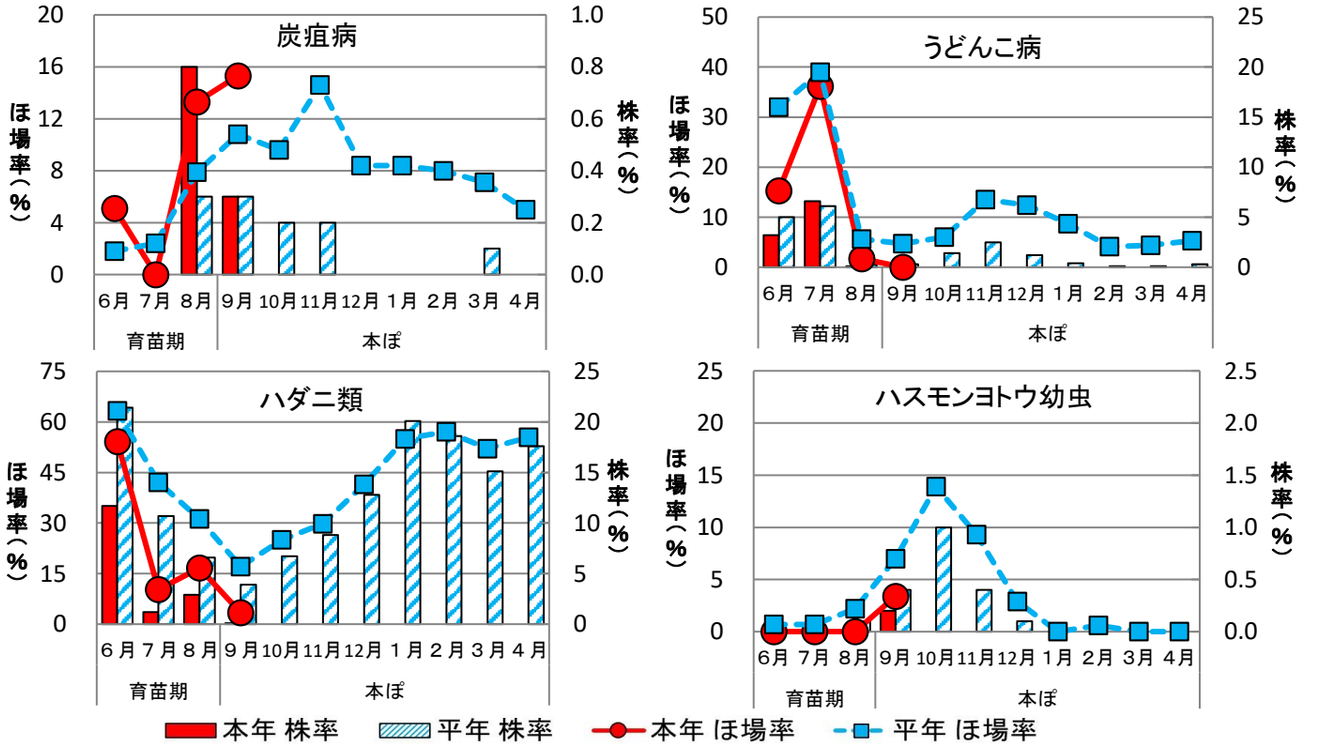
いちご病害虫情報第４号（９月）

令和２(2020)年９月18日
栃木県農業環境指導センター

■　病害虫の発生状況

・**炭疽病**の発生はやや多く、**うどんこ病**の発生は少ないです。
・**ハダニ類**の発生は少なく、**ハスモンヨトウ幼虫**の発生はやや少ないです。

■　主な病害虫の発生推移



■　主な病害虫の発生予想と防除対策

～ 天敵やミツバチ導入期、保温開始までに病害虫を防除しましょう ～

1　炭疽病
(1)　発生予想　・発生量：多い
(2)　対　　策　・水滴の飛散等によって伝染するので、できるだけ水の跳ね返りのないかん水を行う。また、かん水はできるだけ晴天日の午前中に行い、曇雨天日や夕方のかん水を控える。
・症状が出てからの防除は困難なので、予防を主体に薬剤のローテーション散布を行う。
・発病株や感染が疑われる株は見つけしだい取り除き、嫌気的発酵処理（抜き取った株を肥料袋等に詰め、空気を排出し口をしっかり閉じて、日当たりのよい野外に放置する）後に処分する。
(3)　備　　考　・イチゴ炭疽病薬剤感受性検定結果を当センターホームページ（HP）に掲載中。
・植物防疫ニュースNo.11を当センターHPに掲載中。

2　ハダニ類
(1)　発生予想　・発生量：やや少ない
(2)　対　　策　・ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
・化学農薬に対する感受性低下が著しいため、必ずローテーション散布を行うとともに、抵抗性が発達しにくい気門封鎖剤や天敵製剤を活用する。
・天敵導入時にハダニ類が多いと失敗しやすいので、天敵導入前に気門封鎖剤や天敵に影響の小さい薬剤を散布し、ハダニ類の増殖を抑制しておく。
(3)　備　　考　・ナミハダニ薬剤感受性検定結果を当センターHPに掲載中。

3　ハスモンヨトウ幼虫
(1)　発生予想　・発生量：やや多い
(2)　対　　策　・成虫の侵入を阻止するため、開口部や出入り口に防虫ネットを展張する。
・定期的にほ場を観察して早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫を寄生葉とともに摘み取り処分する。幼虫の齢期が進むと薬剤が効きにくくなるので、発生初期の若齢幼虫のうちに薬剤防除を行う。

いちごＧＡＰの実践で良い農業に取り組もう！！